

平成29年12月7日開会

平成29年第4回東松島市議会定例会

議員一般質問通告書

東松島市議会

《 議員一般質問 目次 》

平成29年第4回定例会

順位	氏名	件名	頁
第1位	五ノ井 惣一郎	1 市政執行の分野別事業に問う	3
		2 減反政策の廃止に問う	4
第2位	熊谷 昌崇	1 コンビニ収納について	5
		2 長寿命社会を見据えた働き方について	6
		3 市保有施設からの落葉対策について	7
第3位	石森 晃寿	1 鳴瀬未来中学校移転に伴う通学路の安全確保について	8
		2 専門学校等の設置について	9
第4位	上田 勉	1 宮城オルレ「奥松島コース」の今後の整備の在り方について問う	10
		2 老朽化している公共施設の整備について	11
第5位	大橋 博之	1 矢本パーキングの活用手法を問う	12
		2 東松島ブランドを全国発信せよ	13
		3 お結び課の設置を検討せよ	14
第6位	長谷川 博	1 国保税の引き下げと被災者医療・介護一部負担金免除の継続について	15
		2 住民要望・課題の検討について	16
第7位	小野 幸男	1 野蒜地区の活性化と諸課題を問う	17
		2 教育現場における対応課題について伺う	18
第8位	阿部 としゑ	1 教育委員会の指導を問う	19
		2 婚活事業の充実と新婚生活の応援を	20

第9位	齋藤 徹	1	大震災における行方不明者の捜索について	21
		2	本市の公共施設、学校関連施設の衛生面について	22
第10位	櫻井 政文	1	世代間交流について	23
		2	認知症対策について	24
第11位	熱海 重徳	1	学校施設整備における現場要望対応について	25
第12位	小野 恵章	1	災害公営住宅の家賃低減の延長ほか課題について	26
		2	学童保育と学力向上対策について	27
第13位	土井 光正	1	デマンドタクシー「らくらく号」の利用拡大を図れ	28
		2	集団移転元地未利用地の維持管理を的確にすすめよ	29
		3	通学路の安全対策について	30
第14位	手代木 せつ子	1	市有地の今後の利用について	31
		2	新興住宅地の住所表示について	32
		3	公園整備について問う	33
第15位	滝 健一	1	豪雨被害の備えを万全に	34
第16位	佐藤 富夫	1	震災買い取り元地の利活用を問う	35
		2	本市の観光政策を問う	36

【質問者数16人・質問件数34件】

氏 名	件 名	要 旨
<p>第1位</p> <p>五ノ井惣一郎</p>	<p>1. 市政執行の分野別事業に問う</p>	<p>東日本大震災から7年目、集団移転地、災害公営住宅の入居、公共施設の再建等が順調に進んでいる。課題があるものの、災害地としての復旧、復興の整備の取り組みは、高い評価を得ている。市長は、前市長の市政を継承し、震災復興を加速し発展的復興に努め復興のモデル市としての評価も高い。本年度の予算の中で事業を進め、また市長が市民に約束した公約のもと就任してから7カ月が経過した。29年度も後半に入り12月は次年度の当初予算ヒアリング中と思うが、本年の市政に取り組むに当たり、東松島市第2次総合計画に示す8つの分野ごとに、事業が進められているが、次の5事業の進捗状況と見通しについて何う。</p> <p>(1)「保」、国際的な防災力の向上につながる、施設、研修の受け入れ、スタディーツアーの関係機関との連携体制を深めるとあるが。</p> <p>(2)「備」、(イ) 集団移転地など新たなコミュニティ組織の自主防災組織づくり、(ロ) 消防団の育成強化。</p> <p>(3)「伸」、(イ) 18歳までの医療費無償化、保育施設・放課後児童クラブの充実等、(ロ) 不登校出現率の改善はどのようにされているか。</p> <p>(4)「住」、現在、仮設住宅の解体が進められているが、集約の状況と見通しは。</p> <p>(5)「信」、特定防衛施設周辺整備調整交付金(9条)の大幅な削減の財源確保はどう進まれているか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第1位</p> <p>五ノ井惣一郎</p>	<p>2. 減反政策の廃止に問う</p>	<p>コメ生産調整（減反）が18年度から廃止される。減反政策は米の生産調整を行うための農業政策であり、基本的には米の生産を抑制するための政策である。具体的には、水稻農家に作付け面積を要求し、配分してきた。参加する農家に17年産限りで廃止される「コメの直接支払い交付金」7,500円支払ってきたが、18年産からは廃止される。農林水産省はここ数年間、農業予算が増えたことを挙げ「直接支払い交付金がなくなる分、麦や大豆、飼料米への転作支援として既に先取的に確保している」と説明している。本市の基幹産業である農業は、米を中心として、これまで取り組んできたが、減反廃止により、農業の施策が大きく変わろうとしている。</p> <p>本市は、大震災により、農地への施策が法人化等への方針を進め、今後の安定した農業経営を図ろうとしていたが、減反廃止は、国の施策であり本市の土地利用計画にも絡んでくる。国では、まだ議論中であるが、市長として、減反廃止への考えと今後の対応を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第2位</p> <p>熊谷昌崇</p>	<p>1. コンビニ収納について</p>	<p>6月議会で市税の納付方法について質問をし、検討していくという回答を得たが、11月23日付けの石巻かほくで石巻市の市税収入率右上がりとの一面記事が載った。記事によると、平成15年に納税環境を改善しようと、市民税と固定資産税のコンビニ収納を開始。コンビニ取扱件数は3割を超え、口座引き落としを上回り、窓口利用は年々減少傾向にあるとのことであるが、6月議会のときは「市内部で検討中や経費が掛かるので」の答弁を頂いたが、最後には「進めていきたい」との答弁を得た。本市での導入の進捗状況はいかに。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第2位</p> <p>熊谷昌崇</p>	<p>2. 長寿命社会を見据えた働き方について</p>	<p>現在、人生90年時代であり、100歳の人が珍しい時代ではなくなったと思う。社会の定年制度も一般的に60歳から65歳に引き上がり、年金受給開始年齢も段々遅くなってきている。昔なら定年退職後は年金で悠々自適な生活を送るのが望めた時代ではあるが、ちまたの情報をかんがみると、賃金は上がらず、貯金もできず。退職金も少なくなっているため、老後貧乏というような話をよく聞く。人口が減るということは一般的に税収も減っていくということであり、生活保護の受給者も増える可能性がある。現在、国民年金の満額を受給しても77万9,300円である。1月換算でおよそ65,000円弱であり、この額で暮らすのは大変と思われる。そこで、おのおのの個性および特技や趣味を生かし、月に10万円を副業等で稼ぐのは難しくても、2万～3万円位だったら稼ぐことが出来るような生きがいを持って続けられるようなスキルを付けさせる講座や制度を自治体として考えていくべきと思うがいかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第2位</p> <p>熊谷昌崇</p>	<p>3. 市保有施設からの落葉対策について</p>	<p>先日、コミュニティーセンターの付近に住む方から相談を受けた。落葉の季節になると、毎年、一日に数袋分も掃除をしている。風向きの関係か、向かいの家には集まらないで私の家にばかり集まってきて、家の車庫や物置にいっぱい入り、いい加減に嫌になるという相談を受けた。その住民は今までは市の景観もあるからしょうがないと思ってきたが、歳をとるにつれ、体の調子も悪くなってきたので、初めて相談したとのことでした。この問題はこの地域だけの問題ではなく、市内全域で起きている問題と思われ、いつまでも、市民の善意にすがっていつ片付けられる問題ではないと思われるが、市の対応を問われると思うがどうか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第3位</p> <p>石森 晃寿</p>	<p>1. 鳴瀬未来中学校移転に伴う通学路の安全確保について</p>	<p>地域待望の鳴瀬未来中学校校舎の供用開始が、平成30年1月に決定され、スクールバス等は、平成30年3月末まで延長されることで、生徒全員の通学の安全は、確保され、生徒、保護者も安心している。また、市長、教育長、関係者の皆様に大変感謝している。</p> <p>しかし、平成30年4月からは、生徒全員が、スクールバス等で通学することは、できないと平成29年10月末の保護者との懇談会で、市教育委員会より説明があった。自転車通学となる生徒やその保護者からは、通学路の環境整備が完了するまで、心配で眠れないという声を多くの方から聞いている。</p> <p>(1) 通学路の安全確保について、以下何う。</p> <p>①国道45号鳴瀬大橋歩道のガードパイプの設置について。</p> <p>②国道45号鳴瀬大橋交差点における滞留場の拡幅整備について。</p> <p>③旧小野橋歩道橋の災害復旧について。</p> <p>④池塚・山岸線、山岸・下塚線、大茂倉線等の通学路の防犯灯の設置について。</p> <p>⑤見守り隊の確保について。</p> <p>⑥通学路の除雪、融雪について。</p> <p>⑦児童、生徒、保護者、先生及び教育委員会合同による実地踏査の実施について。</p> <p>(2) 鳴瀬未来中学校の移転に伴う、スクールバス等の運行は、通学路の安全が全て完了するまで、生徒全員を対象として、平成30年4月1日以降も継続しては、いかがか。市長の考えを何う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第3位</p> <p>石森 晃寿</p>	<p>2. 専門学校等の設置について</p>	<p>石巻管内には、専門学校等が少ないので、仙台市まで、通学しているのが現状だ。先日、東松島市と学校法人タイケン学園との連携協定で保育園の設置が決定した。専門学校等の設置を当学園にお願いして、教育環境の整備を図っては、いかがか。設置が決まれば、生徒の通学の利便性の向上、保護者の経費の負担軽減、本市の人口減少の歯止め、地域の活性化になると思うが、市長は、どのように考えているか。相手の希望もあるが、設置場所は、鳴瀬未来中学校、鳴瀬桜華小学校の跡地を候補地とすれば、跡地の問題も解決する。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第4位</p> <p>上田勉</p>	<p>1. 宮城オルレ「奥松島コース」の今後の整備の在り方について問う</p>	<p>11月21日、村井知事とともに韓国済州島に赴き認定機関から韓国版トレッキングコース「オルレ」の認定を受け、協定の締結を行った。</p> <p>地域の食や歴史、文化などに触れながら自然豊かな小道を歩く韓国版トレッキングコース「オルレ」は、宮城県が整備を進める気仙沼市唐桑町の唐桑コース（約15キロ）と東松島市宮戸地区の奥松島コース（約10キロ）が認定を受けものである。</p> <p>日本国内では九州広域のコースに続き、2例目の認定。村井知事は「コースの充実とPRにしっかり取り組む」と話している。</p> <p>県は計8コースの整備を計画し、周遊の魅力をPRする方針。韓国からの訪日外国人旅行者（インバウンド）の増加や、認定コースを持つ九州からの誘客を見込むと報道されている。</p> <p>先の議員全員説明会ではコースの整備や近隣の整備についても議員から質問などが出されたが、特別名勝松島および県立自然公園を抱える宮戸地区のみならず、説明のあった奥松島基本の整備はもちろんだがそれに至る経路の整備や野蒜地区の震災遺構、これから整備される旧野蒜小学校施設・跡地利用、青少年自然の家など回遊できる整備が必要である。</p> <p>加えて宿泊施設などについては、民宿のみならずホテルなどの誘致活動も重要となる。</p> <p>今後の整備の方向性などについて市長の考えを伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第4位</p> <p>上 田 勉</p>	<p>2. 老朽化している公共施設の整備について</p>	<p>震災以降、復旧・復興事業の完結に向けて市長以下全力を傾注し、移転先地を含むハード的なものは、ほぼ完成を見ている。</p> <p>しかし、ここにきて、震災に持ちこたえた各地域の公共施設は、老朽化に伴う補修の必要性が各所で見られる。施設の修理修繕に必要な施設の掌握状況および対策について、伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第5位</p> <p>大橋博之</p>	<p>1. 矢本パーキングの活用手法を問う</p>	<p>矢本パーキングの活用については、旧矢本町時代より現在まで多くの議論を重ねてきた。しかし、有効な活用方法が見いだせず現在に至っている。前阿部市長が検討していたサービスエリアへの昇格を目指しての可能性調査を実施し、その結果も報告されている。</p> <p>今後の矢本パーキングの活用手法について以下の点について伺う。</p> <p>(1) サービスエリアの建設についてどのような財源を活用する予定なのか。</p> <p>(2) 国土交通省の許認可について見通しが立っているのか。</p> <p>(3) サービスエリア用地として隣接の山地を掘削し地盤を下げているが、有効に活用できるのか。</p> <p>(4) 以前に一般質問をさせていただいた一般道との接続をすべきという提案について可能性はないのか。</p> <p>渥美市長の所見を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第5位</p> <p>大橋博之</p>	<p>2. 東松島ブランドを全国発信せよ</p>	<p>今回産業建設常任委員会の行政視察で訪問した岩手県二戸市、市民クラブの会派視察研修で訪問した茨城県小美玉市での研修内容について大変参考になったので、ぜひ東松島市でも取り組むべきと考え質問する。</p> <p>東松島ブランドといえば（1）観光資源の奥松島、航空自衛隊松島基地、（2）特産品としてのカキ、ノリ、農産物等になる。ブランドの確立のため全国に発信せよと議会だけでなく、民間からも数多くの提言が出され執行部としても鋭意努力されてきたと評価するが、他の自治体との差別化はまだ不十分と思う。</p> <p>（1）岩手県二戸市の取り組みを参考に市長を先頭にトップセールスを強化すべきである。国内だけでなく海外へもアピールする手法を。</p> <p>（2）茨城県小美玉市ではダイヤモンドシティ・プロジェクトを総合戦略として策定し、市民と連携した魅力の発信を進めている。情報発信手段としてSNSを活用できるWebサイトの動画によるプロモーションを実施している。この動画は「移住・定住の推進」「恋愛・結婚の推進」「観光の推進」の3つの分野があり、所管課が連携して制作している。この努力が行政サービス比較検討サイト「生活ガイドドットコム」の地域注目度ランキングで2月から10月まで連続1位になっている。</p> <p>この2つの自治体の成功ポイントは品目毎のブランドとしてではなく、にのへ、おみたま、という総合力でのブランドの確立に成功している点である。</p> <p>今後の東松島ブランドの確立、そして発信の手法について渥美市長の所見を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第5位</p> <p>大橋博之</p>	<p>3. お結び課の設置を検討せよ</p>	<p>以前会派の視察研修で佐賀県武雄市に訪問した時にお結び課の取り組みを研修した。行政が本格的に婚活事業を専門的に事業として実施していた。ここ数年、地方創生の予算措置の中で定住促進のための婚活事業について、東松島市でも他の市町村に先駆けて積極的に実施している。所管は市民協働であり、昨年度からHOPEへの委託事業として実績を上げている。</p> <p>今後のさらに実績を上げるために市役所版結婚相談所を設置すべきと考える。婚活イベントとして継続的に実施していくと同時に結婚の確率を上げて行くためにも早期に検討すべきと考える。市長の所見を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第6位</p> <p>長谷川博</p>	<p>1. 国保税の引き下げと被災者医療・介護一部負担金免除の継続について</p>	<p>10月30日、宮城県は国保県単一化を前に市町村別の保険料の試算値を公表、新聞報道された。一人当たりの年間保険料は15市町で増え、最大29%引き上がるとした。その一方で、本市の試算は28年度決算の税額と比較すれば24.9%減と示された。</p> <p>そこで何うが、</p> <p>(1) 24.9%減はどの程度の税の引き下げと見込めるのか。</p> <p>(2) また、本市の国保会計の基金額はどうなっているか。</p> <p>(3) 加えて、県単一化に向けて税の算定方式が従来の4方式から3方式になると聞き及んでいるが本市ではどうなるのか。</p> <p>(4) 一方で、県単一化によって市が実施している保険税の申請減免や、短期証・資格証の取り扱いはどうなるのか。</p> <p>また、被災者に対する医療費の免除および介護保険利用料の減免について、国は免除を継続する自治体に対して次年度も10分の8の特別調整交付金を交付する見込みとも聞き及んでいる。住民税非課税で自宅が大規模半壊以上の世帯を対象を限定して行っているが、こうした方々の生活実態に寄り添い免除を継続すべきと考えるがどうか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第6位</p> <p>長谷川博</p>	<p>2. 住民要望・課題の検討について</p>	<p>住民からさまざまな要望が出され、機会を捉え市当局に対応策を求めてきた。この間、住民要望として取り上げた以下の件について、その後の検討の状況を伺う。</p> <p>(1) 就学援助費の新入学用品費（入学準備金）の前倒し支給について。</p> <p>(2) 障がい者地域生活支援事業における福祉タクシー券利用助成事業の一部見直しについて。</p> <p>(3) 柳の目東地区災害公営住宅の一部における玄関ドアの防風対策について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第7位</p> <p>小野幸男</p>	<p>1. 野蒜地区の活性化と諸課題を問う</p>	<p>震災から6年8カ月が過ぎ、野蒜ヶ丘の高台も1丁目、2丁目、3丁目と自治会も始まり野蒜地区全体の町づくりのスタートでもある。また、先月にはメモリアルパークも完成し、多くの方々に訪れていただき手を合わせていただく姿が多く見受けられる。野蒜駅も住宅が張り付き観光客を含めた利用も期待されることから以下について問う。</p> <p>(1) 野蒜駅周辺と観光物産センターの活性化の一つとして牡蠣焼きのイベント等の取り組みとトイレの設置について。</p> <p>(2) 野蒜駅を拠点とした、観光ルートの交通の足の確保について。</p> <p>(3) 野蒜ヶ丘1丁目の集会所の整備計画と、南北通路を有事の際の避難場所として指定すべきでは。</p> <p>(4) 新東名3～4丁目の震災で堆積した側溝の土砂等の撤去について問う。</p> <p>(5) 野蒜ヶ丘全体の街路灯の設置が、不均衡ではとの指摘があるが確認はされているか、防犯カメラの設置計画もあれば問う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要 旨
<p>第7位</p> <p>小野幸男</p>	<p>2. 教育現場における対応課題について伺う</p>	<p>世界で一番忙しい日本の先生として、報道等で長時間労働の教師の（働き方改革）が緊急提言として放送されています。これらを含めて教育現場における対応を問う。</p> <p>(1) 石巻管内・東松島市内の先生方の過重労働の現状と対策の取り組みと改善に取り組んだ事例について、また給食費の収納について、最後は先生方がまとめると聞き及んでいるが現状について。</p> <p>(2) 学力低下の児童生徒の救済策と体力向上の取り組みについて伺う。</p> <p>(3) 鳴瀬未来中学校の通学路の安全対策は万全か、またいろいろな保護者等からの要望の対応について伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第8位</p> <p>阿部としゑ</p>	<p>1. 教育委員会の指導を問う</p>	<p>「僕だけ強く怒られる」、「生徒が担任や副担任から同じ課題を何回も与えられた」と遺書らしきものを残して福井県の中学校2年生の男子生徒が自殺をした問題等を受けて以下について、教育委員会では、どのような指導をしているか伺う。</p> <p>(1) 本市では、小中学校の児童・生徒に対して学校での生活や先生方に対して困り事、不満、悩みのアンケート調査等を行ったか。</p> <p>(2) 生まれつき茶色い髪やくせ毛の生徒に対しての指導をどのようにしているか。</p> <p>(3) 部活動に対していき過ぎた指導等はないか。</p> <p>(4) 他の学校行事、運動会や学習発表会、交流と学び研修会などに先生方も積極的に参加して学ぶことも大切であると思うがどのように考えるか。</p> <p>(5) コミュニティースクールの進捗状況と問題点について。</p> <p>(6) 11月に赤井小の通学路にて、子どもたちの写真をパチパチととる不審者がいたというが、これらのことに対して教育委員会ではどのような指導をしているか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 教育長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第8位</p> <p>阿部としる</p>	<p>2. 婚活事業の充実と新婚生活の応援を</p>	<p>私は先日、東松島市の婚活事業スイーツ婚企画でカップルとなった2人の結婚式に出席した。市内の農家の長男と仙台方面の会社員の女性でこの事業がなければ出会うことのなかった2人がめでたくゴールインした。結婚後は親と同居し、2人一緒に本市で農業をすることのこと。</p> <p>全国的に人口減少も重なり、婚活事業が盛んに行われている。本市においても20代、30代、40代と未婚の男女はたくさんいると思う。</p> <p>結婚したい相手と巡り合えない。チャンスがない。結婚への不安、ためらい。住居の心配等さまざまである。若者の定住化につなげるためにも、婚活事業は大切であると考え。</p> <p>こうした中でますます婚活事業を充実すべきである。婚姻届を提出、夫婦ともに本市に居住する者に対して独自の支援策を打ち出して新婚生活を応援してはどうでしょうか。長い目を見た少子化対策、地域の活性化につながるものと考えがいかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第9位</p> <p>齋藤 徹</p>	<p>1. 大震災における行方不明者の捜索について</p>	<p>11月12日、震災行方不明者の捜索が行われた。私自身、本市の消防団員として参加したが、団員の装備と手法に改善の余地があると思われる。</p> <p>市、消防団、市民の三位一体となった対応が今後も求められると思うが、現在の状況を踏まえた上で、以下の点を伺う。</p> <p>(1) 捜索場所の選定方法は妥当か。</p> <p>(2) 捜索にかかわる消防団員装備の妥当性と手法について。</p> <p>(3) 市の捜索に対する姿勢について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第9位</p> <p>齋藤 徹</p>	<p>2. 本市の公共施設、学校関連施設の衛生面について</p>	<p>本市における公共施設、学校関連施設の内部における衛生面の維持、対策について以下の点を問う。</p> <p>(1) 老朽化したトイレの多機能化および空調設備改修等へ向けた本市としての取り組みについて。</p> <p>(2) 施設内での感染症予防へ向けた取り組みについて。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第10位</p> <p>櫻井 正文</p>	<p>1. 世代間交流について</p>	<p>1994年、少子・高齢における社会保障のあり方について有識者が提言した「21世紀福祉ビジョン」において、世代間交流の必要性が強調された。その後、2003年には、日本世代間交流協会も創立され、今日まで高齢者の生きがいや健康づくりなどを見据えた世代間交流がなされてきた。</p> <p>また、けん玉や三世代で歌う合唱団などの実践活動が各地域で行われている。地域伝統文化の継承、礼儀作法を学ぶ、毎日に張りが生まれるなど世代間交流は、高齢者と子供双方にもたらすメリットは大きく、地域を元気にしてくれるものとする。また、若・中年世代も一緒になって活動できる体制を構築できればさらに意義が深まる。そこで以下の点を問う。</p> <p>(1) 世代間交流を推進するための環境整備に予算と人員を割く考えはあるか。</p> <p>(2) 世代間交流の拠点になりうる「こども食堂」を開設する考えはあるか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第10位</p> <p>櫻井 政文</p>	<p>2. 認知症対策について</p>	<p>健康寿命の延伸の大きな阻害要因が認知症だ。65歳以上の認知症の患者数は2025年に700万人（約5人に1人）を突破すると厚生労働省は推計しており、対策は急務である。当市でもさまざまな認知症対策に取り組んでいるが、ぜひ重点事業として取り組んでほしい。特に予防の普及や予防療法の実施に力点をおいた施策を策定し、実施してもらいたい。最近IPSで認知症薬実用化の記事に接し、一条の光が差し込んだという感じがした。</p> <p>認知症対策について以下の点について問う。</p> <p>(1) 若年性認知症は深刻な社会問題だ。対応策は。</p> <p>(2) 消費者トラブル、家族の介護負担、介護者からの虐待などの社会問題に対する策は。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第11位</p> <p>熱海</p> <p>重徳</p>	<p>1. 学校施設整備における現場要望対応について</p>	<p>本市では全ての市内小中学校に対し、耐震補強工事を計画通りに施工してきた。また、東日本大震災で被害を受けた鳴瀬地区には新しい校舎が建設・計画され、教育環境が整えられてきた。</p> <p>しかし、校庭整備などの外構部分や、細部にわたり、現場からの要望もいまだ多く現存している。さらに市内にはスポーツ少年団などスポーツ関係団体が練習で学校を利用することも多く、そちらからの要望もある。今後、修繕、予算、利用等の要望に対し、どのように対応していくか伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第12位</p> <p>小野 惠章</p>	<p>1. 災害公営住宅の家賃低減の延長ほか課題について</p>	<p>災害公営住宅は東日本大震災特別家賃低減事業として、建物の管理開始から5年間は家賃が低減され、6年目から10年目は段階的に引き上げになり、11年目以降は本来の家賃となるものだ。災害公営住宅にまだ入居できない方がいる一方で、早く入居された方はもうじき引き上げを迎えることになる。仮設住宅から、災害公営住宅に転居されたからと言って、金銭的に楽とは結びつけることはできない。自力再建できない方の入居が主で、引き上げで退去者が出ることは本末転倒になりかねない。</p> <p>災害公営住宅に係る課題について問う。</p> <p>(1) 災害公営住宅の家賃低減延長の考えは。</p> <p>(2) 災害公営住宅の市営住宅への移行時期は。</p> <p>(3) 既存の市営住宅の改廃の予定と跡地の考えは。</p> <p>(4) 戸建災害住宅の払い下げの考えと時期について。</p> <p>(5) 災害公営住宅整備が進むことによる、民間アパートの空室増加の現状をどう考えるか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第12位</p> <p>小野 惠章</p>	<p>2. 学童保育と学力向上対策について</p>	<p>矢本西市民センター建設予定地内に予定されていた学童保育施設が、児童の安全を優先するためとして、矢本西小学校内への建設予定に変更された。また、今後の学童保育施設についても、学校敷地内建設とのことである。学校敷地内は、学校管理下とのイメージがあり、安全性に結びつくと考え。しかし、昨今の本市の学力低下を見れば、この施設を利用した学力向上の場としても活用すべきと考え。それぞれの所感を問う。</p> <p>(1) 施設を利用した学習支援についての本市独自の施策の考えは。</p> <p>(2) 施設の管理はどう行うのか。</p> <p>(3) 学校敷地内への学校長の理解はどうなのか。</p> <p>(4) 本市コミュニティスクール導入における学習支援システムの構築の考えは。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第13位</p> <p>土井 光正</p>	<p>1. デマンドタクシー「らくらく号」の利用拡大を図れ</p>	<p>本市におけるデマンドタクシーは、平成21年度より運行開始を行っている。この乗り合いシステムは、タクシー車両を使用して自宅などから目的地まで「戸口から戸口に」運ぶ公共交通システムであり、私は、デマンドタクシーこそが高齢者の地域交通確保として最も有効な交通手段であり、自動車免許返納者の代替の交通機関であると考えている。</p> <p>デマンドタクシー運行開始より8年を経過しているが、この間に大震災があり、さらなる高齢化が進行し、高齢者も増えている状況変化の中で、運行実績をみると減少傾向で頭打ちになっている状態にある。これらを踏まえ次の3点について伺う。</p> <p>(1) 利用者数の減少傾向や頭打ちは、デマンドタクシーそのものについての認知度が低いために一定の乗客だけの利用で、広がりが無いのではないかと考える。デマンドタクシーの認知度をアップさせるための取り組みについて伺う。</p> <p>(2) 利用対象者を一定の枠内で拡大することも必要であり、基本的には市内在住者の事前登録で利用できるが、高齢者の通院等の付添人に限り、市外登録者でも利用できるようすべきと考える。これは、付添人も高齢化が進んでいる現状を踏まえ提案するものであるがこの点について伺う。</p> <p>(3) デマンドタクシーのサービス向上という観点で、一番、要望が多い荷物の持ち込み個数の緩和や、11枚つづりのチケットを10枚分の価格で提供することによる、お得感を出すなど運用面での変更による利便性の確保が必要と考えるがこのことについて伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第13位</p> <p>土井 光正</p>	<p>2. 集団移転元地未利用地の維持管理を的確にすすめよ</p>	<p>先日のNHKのニュースで宮城県は、大震災の津波被災地の集団移転する住民から市や町が買い取った沿岸の住宅跡地の内、まだ利活用が定まっていない未利用地は19%あり、約244haの利用方法が決まっていないことが報道されていた。いろいろな土地の制限がある中で決まらないとのことであり、今後、活用の見通しが見つからない場合は自然に戻すという選択もあるとの報道がなされた。県の担当課に確認したところ自然に戻すとはそのままの状態を手を加えないとの説明であった。</p> <p>本市においてもまだ利活用が定まっていない未利用地があり、先の9月議会の決算審査で元地の管理状況を現地を確認しているが、長期貸付分を除くと3月末現在で42%、約72haが未利用地になっている現状である。しかも隣接地が貸付地や現地再建地となっていて、活用の見通しが見つからないからといって自然に戻すわけにはいかず、除草等の維持管理が必要不可欠となる。現在は、要望等により、年1度程度の除草を行っているが、予算等の絡みがあり、現実としては全てに手が回らないのが実情であると聞いている。もちろん利活用の啓発は、今後もさらに推し進めていくことは重要であるが、これらのことを踏まえて次の3点について伺う。</p> <p>(1) これらの未活用地を将来にわたる維持管理をどのように考えているのか。</p> <p>(2) 維持管理を最小限に押さえる工夫としての提案であるが、一度、ブルドーザー等により、伐開・伐根を行い、がれき等を除去し、整地することにより、従来の肩掛け機械による除草から、大型自走式除草機械による除草作業を行うことにより、私の試算では3分の1の単価で全体の経費を抑えることができるし、逆に現在の経費で3倍の除草を行うことができる。将来的には、IoT技術で無人化による除草でさらにコストを削減できる。また、このように管理された土地については、新たな土地利用計画も生まれるのではないかと考えるがいかがか。</p> <p>(3) 土地利用計画を進める上で最も基礎的なインフラが整備されていないと借り手もないのも事実である。東名地区は、現在、排水が非常に悪い状態であることは周知のとおりである。この地域については、民家もなくなり、雨水排水の下水道事業を行うにはなかなか厳しい状況と思われるが、地域基盤の復興整備を進める上では、他の排水事業も含めた事業実施がこの地区では必要不可欠なインフラ整備と考えるがいかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第13位</p> <p>土井光正</p>	<p>3. 通学路の安全対策について</p>	<p>最近のニュースの中で、高齢者の運転する自動車が登下校中の児童生徒の列に突っ込み、死傷者が発生するという痛ましい事故が報道されている。その都度、政府は、事態を重視し、国土交通省、文部科学省、警察庁の三省庁が連携し、通学路の緊急総点検を行い取りまとめ報告をするように通達が出ている。幸いにして本市においては大きな事故は無いようだが、市内の通学路を歩いてみると危険との隣り合わせの個所も多くある。各学校では、年に1度、危険個所の点検を行い、教育委員会に報告しているが、なかなか危険個所の解消がされないのが現実である。この点を踏まえ通学路の安全対策について次の2点について伺う。</p> <p>(1) これまでも検討されていると思うが、道路水路に蓋がけや組立歩道などで新たな歩行空間の確保を積極的に推し進めていく必要があると思うがいかがか。</p> <p>(2) 車が快適に走行できる道路から歩行者が安全に歩行できる道路への発想の転換として、外側線のみの方道の幅を狭め、歩行者の通行帯を拡幅する。さらに拡幅した通行帯にカラー舗装を施し、歩車識別をする。こうした対策が有効だと考えるがいかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第14位</p> <p>手代木 せつ子</p>	<p>1. 市有地の今後の利用について</p>	<p>小野駅前地区応急仮設住宅撤去後の市有地の利用について、次の点を伺う。</p> <p>(1) 同地番には既に30戸の災害公営住宅が完成し、居住済みであるが、残った仮設住宅を撤去後、跡地の利用をどのように考えているのか。</p> <p>(2) 現実として、わが市は他自治体に比べ集会所等の施設数が多いため、今後は統廃合を考えているようであるが、陸前小野駅前、国道45号南側は東日本大震災前40戸ほどの住宅から震災後は150戸ほどに住宅が急増している（その中には、災害公営住宅30戸含む）。つまり、震災後に他の自治体から転入された方々も多く、これからの少子高齢化に向けて、新しい街づくり、コミュニティづくりに、同地区民より集会所等があればという声が多数出ている。市長は、6月定例会の齋藤議員の老朽化した集会所についての一般質問に対し、統廃合は考えているが、今後の人口の動向をみて、将来的にみて、地元の如何をみて、と答弁していた。私は、人口が増えた地域については、集会所の新設もあり得ると理解したが、市長の考えはどうか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第14位</p> <p>手代木 せつ子</p>	<p>2. 新興住宅地の住所表示について</p>	<p>牛網往還地区は、国道45号を境にして北側と南側に区画整理され、牛網字駅前一丁目、二丁目、三丁目、駅前東と新しい街並みができている。しかし、地区内に住所表示の看板がないために、他地域からの来訪者が目的地に着くことが難しい状況にある。これは牛網だけのことではなく、新しい団地についても同様と思われる。</p> <p>昔は電柱に大まかな住所表示等があり、とても助かったが、地域コミュニティづくりの上でも、それは必要なものと思うが、市長の考えはどうか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第14位</p> <p>手代木 せつ子</p>	<p>3. 公園整備について問う</p>	<p>(1) 都市公園について、次の点を伺う。</p> <p>①設置状況および管理方法は。</p> <p>②日常点検、定期点検および環境整備の状況は。</p> <p>(2) 牛網「鷹の巣山公園」の整備について次の点を伺う。</p> <p>①公園条例の中では、「その他公園」という扱いであるが、牛網地区民にとって、健康維持の目的でウォーキングコースの一つとなっており、利用されている方も多いため「都市公園」に格上げできないか。</p> <p>②津波などの有事の際、一時避難場所と指定されているが、いつ発生するかわからない災害にむけて、頂上までの階段、手摺、樹木等の維持管理の状況は。</p> <p>③防犯上、照明が必要と考えるがどうか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第15位</p> <p>滝 健 一</p>	<p>1. 豪雨被害の備えを万全に</p>	<p>震災復興はまだ途上ではあるが、本市の総力の結集と国内外のひとかたならぬご支援により大きく進捗している。一方地球温暖化などの気象変動が遠因と思われる局所的集中豪雨が、全国各地で発生するようになって久しくなる。毎年のように住民の尊い生命や財産が失われる豪雨被害が報道されている。その様子に恐怖と同情で胸を痛める市民も多いと考えられる。</p> <p>市では、平成21年3月防災マップ洪水編を作成している。鳴瀬川、吉田川の浸水想定では、大雨によってはらんした場合に想定される浸水の状況をシミュレーションによって求めたものである。浸水被害の想定範囲や浸水の程度、主な急傾斜地危険箇所や土石流危険区域が示されている。このマップで想定している大雨の規模はおおむね100年に1回程度起こる、鳴瀬川流域で2日間で312mm、吉田川流域で2日間で335mmとしている。1時間雨量が50mmを超える猛烈な雨が局所的に降る場合の想定はしていない。しかし、本市にはゲリラ豪雨が無いと断ずることはできない。何時現実化するかもしれない危険性がある。取り組む必要がある重要課題としなければならないと思われる。以上の観点から安全・安心のまちづくりのために、以下の件について伺う。</p> <p>(1) 平成21年の防災マップ洪水編は、鳴瀬川、吉田川と旧北上川、江合川の浸水想定、急傾斜地危険箇所や土石流危険区域を示している。市としては、それに基づき、これまで種々対応されてきた。それらを年度ごとに検証されていると思われるが、その結果は。</p> <p>(2) 市内の各排水路が何時でも正常に機能すべく、定期的な点検が大切である。どのような方策で行っているか。</p> <p>(3) ゲリラ豪雨時の市内危険箇所の把握状況とゲリラ豪雨防災マップの必要性。</p> <p>(4) 想定外のゲリラ豪雨に対する、本市の対処の仕方を検討したことがあるか。あるとしたらその方針。</p> <p>(5) 市民には、地震や津波の危険性はかなり周知されているが、洪水については比較的無頓着である。今後の防災関連事業に取り上げるべきと思われるが、その考え。</p> <p>(6) 保育所、幼稚園児や児童生徒、災害弱者の避難誘導策。</p> <p>(7) 災害に対する方策について、地域からの自主的な取り組みをどのように評価するか。</p> <p>(8) とりあえず、防災マップの修正版を作成するための検討が必要と思われる。その考えは。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第16位</p> <p>佐藤 富夫</p>	<p>1. 震災買い取り元地の利活用を問う</p>	<p>大曲浜被災市街地は、特別用途地区の指定を受け工業地域を主として生まれ変わろうとしている。しかし、同じ沿岸地域であっても、牛網、浜市、野蒜地区はどうであろうか。若干の農業法人等に、無償借地方式により若干の企業進出は見られるものの、一見虫喰いの様相であり、夏ともなれば雑草が生い茂り、日本三景の一部としての景観を損ねている。後に述べる観光政策との関連もあり、体系的なビジョンを示すべきと思料するが市長の所信はいかに。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第16位</p> <p>佐藤 富夫</p>	<p>2. 本市の観光政策を問う</p>	<p>(1) 標題の政策は、本市発展の総合戦略に大きな影響を与えるものであると思うが、市長はどのような認識であるか。また、石巻圏DMO関連についてはどうしても石巻市中心となりがちである。今や観光政策にしても、自治体間、地域間競争になってきている。DMOからの離脱は考えられないが、本市独自の政策を市長交替を契機に打ち出してはどうか。市長の所信は。</p> <p>(2) 先般の宮城オルレ協定による奥松島コースの認定はさらに本市観光の夢が広がった。しかしスポット的なものであっては集客効果が薄いことは承知のとおりである。本市は全国的にも有数な自然財産豊かな地であり、それらを全てリンクさせない手は無い。近い将来開設される野蒜海水浴場、海岸美、食の文化等々枚挙にいとまのない資源を一体化させて内外にPR行動することがキーポイントであると思料するが、市長の所信を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>